

第16回国立大学情報処理センター協議会総会議事要旨

代表幹事 美宅成樹
(東京農工大学 総合情報処理センター長)

第16回国立大学情報処理センター協議会総会が、平成12年6月30日(金)に東京農工大学小金井キャンパスにおいて開催され、文部省学術国際局から3名、国立情報学研究所から5名、全国の総合情報処理センター等31大学から62名、情報処理センター等48大学から94名、学内共同利用施設1大学から2名、総勢166名の参加が得られ、活発な議論が交わされた。

1. 開会

細矢治夫代表幹事(お茶の水女子大学情報処理センター長)から前半司会の挨拶があり、開催校として梶井功東京農工大学長、美宅成樹東京農工大学総合情報処理センター長から挨拶があった。

2. 国立情報学研究所挨拶

羽鳥光俊 国立情報学研究所開発・事業部長

平成12年4月1日に学術情報センターが国立情報学研究所に改組した旨のご挨拶と組織説明があった。研究組織としては、3部7研究系27部門、2研究施設から構成されている。事業組織として開発事業部があり、学術情報センターSINETの業務を引き継ぐことになっている。また、事務組織として2つの部門がある。

3. 新センター紹介

細矢治夫代表幹事より、東京外国語大学情報処理センター、東京芸術大学情報処理センター、大分医科大学医学情報センターが情報処理センター組織となり、また、省令化施設として静岡大学総合情報処理センターと佐賀大学学術情報処理センターが設置された旨の報告があった。

4. 学術情報行政の最近における動向について

山田真貴子 文部省学術国際局学術情報課学術情報基盤整備推進室長
ご挨拶ののち、表題のテーマについてご講演があった。

学術研究目的のための個人情報保護

政府としての情報セキュリティに対する取り組みと大学におけるセキュリティ対策
平成 13 年 1 月の行政改革による省庁再編では、学術情報に関して、科学技術学術政策局、研究振興局、研究開発局の 3 局が設置される。情報処理センターは、研究開発局情報課および学術基盤整備室が担当する。

今後 5 年間の科学技術基本計画について

平成 12 年の学術情報基盤整備充実関係予算と SINET の拡充計画について
大型計算機センター改組関係、総合情報処理センター化、海外との接続強化

5 . ユービキタスコンピューティングネットワークの動向について

山田茂樹 教授 (国立情報学研究所情報基盤研究系)

ユービキタスコンピューティングは、一人あたり数百から数千のコンピュータが利用者に見えない形であらゆるところに存在し、意識せず人間が必要とする情報を提供する概念であり、その実現性について、仮想現実感、モバイル環境と対比させて説明された。さらに具体的なアプリケーションシナリオを想定した環境下におけるユピコンプの振る舞いと技術的課題をモバイルコンピューティングの発展形を例に提案があり、日本での同分野の研究促進を期待する旨のご講演があった。

6 . 報告事項

司会： 渡邊啓行 埼玉大学総合情報処理センター長

(1) 分科会 1 「ネットワークに関するテクニカルな話題」報告

戸田洋三 千葉大学総合情報処理センター

IP アドレスの学内管理問題、セキュリティ対策、Web 代行サービス (東工大)、SPAM 対策、メール不正中継対策 (岐阜大) について議論した。全体としては、不正アクセス対策についての各大学での取り組みの現状と資料の紹介について議論した。

(2) 分科会 2 「センター運用に関する諸問題」

高井正三 富山大学総合情報処理センター

資料として広島大、岡山大、和歌山大、富山大の例をもとに議論した。 レンタル期間の延長と経費削減問題、 レンタルでなくリースにし、多様な形態での導入の可能性、 SINET の安定運用についての要望、 コンピュータ犯罪への対処方法、 やりがいのあるセンターにするために、センター運営に対する評価監査制度を設けて賞を創設する、 大学の IT 情報化が縦割りであり、事務系を含めて横断的に情報化を推進する必要がある、 21 世紀の情報処理センターの在り方を協議会で議論する必要があり、報告書形式による提案が必要ではないか、等の議論があった。

7. 総合討論

- (1) SINET のサービスと値段、利用規定と独立行政法人化について。
- (2) SINET の第一種、第二種免許と、Internet 2 等の研究用インフラの整備について議論が交わされた。
- (3) SINET の IPv6 化と VoIP 電話について要望があった。
- (4) Web サーバ、メールサーバのアウトソーシングの可能性と予算措置について。
- (5) セキュリティ対策の優秀な取り組み事例には賞を与えるなど大学間での情報交換の仕組みの必要性。
- (6) センター教官の評価について議論があった。大学の IT 化への積極的な取り組みを評価する機関、評価システムが必要。論文だけでなく社会に役に立つプログラムや大学の IT システム構築、授業支援も評価対象とすべきである。
- (7) 教育学部付属小中学校を抱えたセンターは、少ない人員と予算で情報化に必死で取り組んでいる。
- (8) 電子計算機借料の 5 年レンタルに対する議論があり、協議会総会として文部省に要望書を提出することになった。
- (9) どの大学でも学内でのセンターの地位と発言力が弱い。文部省から各大学当局に対して情報処理センターの待遇改善等を指導できないかとの提案があった。
- (10) 佐賀大学は、学内努力により教授ポストを含めた増員を実現できたとの報告があった。さらに、概算要求や学内説得のための大学 IT 化に必要な正式資料の必要性を痛感したとの報告があった。

8. 次回開催校

次回開催は、東京医科歯科大学に決定した。

9. その他

第 16 回国立大学情報処理センター協議会総会に関することは、次の Web ページにて公開している。

<http://www.tuat.ac.jp/~nipc/nipc16/>

(以上)